

花傳抄

分二卷

千 12

1656

2



12
1656
之



調子此次第乃復先調子といつて天地
らき一より此子あふりそ調子に
乾夏をあら一五分此極古小かきりそ
洞子を極わらして諺ありそれをあら
りふ事成りし心ゆへに此巻お
大欣書あるを取乃る事し

五調子乃次分れ度

一雙調といつて月出度調子也列春三
月乃洞子に定方かくは時を東也

卷二

人乃臆小之時八肝乃臆之法也青子あり、
味を酸あちなり本性と是を定眼子通
調子あり

一黃鐘といつえ其三月乃調子なり方かく、
小之時八南なり五臆よ之時八心乃臆之其
ろ赤一味を苦あり火性と是を定舌
小通教潤子あり
一手調中といつえ秋三月乃調子なり方かくに
之時八西也五臆よ之時八肝乃臆之其を

白味をかしき也金性と是を定鼻子通
調子あり

一盤傍中といつえ冬三月乃調子あり方かくに
之時八小也五臆よ之時八腎乃臆也其を
黒一味を鹹也水性と是を定耳小通
潤子あり

一越といつえ去用乃調子あり方かくに
時八中よりあり五臆よ之時八脾乃臆あり
其を黄あり味を苦あり去性と是を

定口小通の調子あり此清乃潤子小付て
とくさほくの子細乃居かかり
く此奏乃未小書とるまて形う田月毛去用
やおの調子あり又去用のまひ潤子ち
りふま子細あり

一越りり出敷ハ 断吟あり

一平調りり出るハ 勝絶下之潤之

一雙潤りり出るハ 島鐘あり

一黄鐘りり出るハ 鶯鐘あり

一盤法りり出るハ 神仙上立調

十二天之調子之度

一越上 断吟^{十二} 平調^三 勝絶^二 下立調^三

雙調^四 島鐘^五 黄鐘^六 鶯鐘^七 盤法^八

神仙^九 上無調^十

時之調子之度

子 呂 盤法 湯冬 定 呂律

丑 神仙 蔭

寅 呂律 鶯鐘 湯

卯 呂律 雙調 陰 春ヲ定

辰 律 島鐘 陽

巳 律 上立洞 陰

午 律 黃鐘 湯 復定

未 呂 越洞 陰 去用定

申 律 呂 斷 吟 湯

酉 律 呂 平洞 陰 秋定

戌 呂 下立洞 湯

亥 呂 勝絕 陰

一朔 平 下立洞 黃 寧 盤 神 止

カラシ
ヒルナリ
白ナリ
秋ナリ
平洞

截 赤 申 西 酉 戌 亥 勝絶 六ニキ 冬ニ

南 中 关 越 去 用 小 盤 涉 子 申 夜 星 也

白中 友之 上立 己 辰 東 寅 丑 神仙

乃洞 春ナリ 青 スニ 目交 寧持

右方如く五調子也

耳 辛酸苦五味五色五時五季其如此

一雨ハ 双洞 一浪ハ 盤涉

一河ハ 盤涉 一竹ハ 盤涉

一木ハ 双洞 一石ハ 盤涉

一鳥ハ 盤涉 一鐘ハ 黄鐘

一雷電ハ 盤涉 一魚ハ 平洞

一凡ハ 平洞 一土ハ 越洞

一雙洞ハ 教心ニ 調子也

一黄鐘 十行ノ 洞子ナリ

一平調 菩提ノ 洞子ナリ

一盤涉 俱盤ノ 洞子ナリ

一越 方便ノ 洞子ナリ

一五調子と 宮商角徽羽 五音

引合する意

一宮ハ 子ノ 息とつこ也 洞子ハ 六

一越あり 土用子そちいんあり

一 丹洞 炎鐘 一 越時 二 洞子 只 骨 乃 者 と 定 法 云

小用あり

一 丹 調 上 之 洞 子 と 父 守 下 之 洞 子 と 母 守

天地陰陽和合の洞子と是と云丹洞あり

ひそ乃りりるともむせやめりり子 諸願成

然乃調子と名付

一 五 音 さ ー ー つ ー ー ぬ 事 ー ー

一 あ い う ー ー と 下 善 の 中 善

一 か き く け こ

一 さ ー ー 寸 せ ー ー

一 た ち つ て と

一 か に ぬ ぬ の

一 は ひ ふ ー ー ぼ

一 ま ー ー び め も

一 や い ゆ え よ

一 ら り る れ ろ

一 わ な う ぬ ね

一唯門

あいうえを
かきくけこ
やいゆえよ

唇

ぱひふへほ
まみむめも
わわうをわ

一舌

さしそせそ
たちつてと
かにぬねの
らりるれろ

一四穴吹撮乃受



一三四

三四二三新四穴塞平
 一下二羽二二島三黃二三寫
 四盤一四神仙二四上



一座敷あり謡の洞子れ度小座敷ありハ

平調より濁り一子潤子にあげしむあり

一廣間小くハ好潤より黄志こ小濁してこむ

教ありき一嗽ありくありて十番目やとん

そそんきこ小あき可成いさうあり是

は當座乃座安相連の潤子あり是を

時代潤子と云四季の潤子去用乃潤子右

乃取合口傳ふあり

一春を ● 双潤 ○ ○

一夏を ● 黄鐘 ○ ○

一秋を、平調きうあわす子潤ハあきう

ひくき潤子あはん子潤より濁りやそ

双潤小うつて者是習なり熱別好ハあ

まり子高き潤子とんきら小なりま子

細を秋を物あはれあはれ心すこきこ乃

あれえ潤子たりこハ折小きもあはれこ

と人小を時を好とまん分よこりいも好

義あり

一冬を人きこありさうあわす去季乃

調子あはれそとく初らうらなやん人あきこと
謡いつて座敷小相恋せぬ声そつつか守
りまあきこそれ小ひる是を丹潤う黄
鐘小く流ゆ一座乃るにいろ人あきこ
あるま習ありとかくを八好小地うひ潤
子ひくきま事きくらあありはま子細をあた
成とて風乃若も潤子たうくあきほりく
吹ぬ時雨乃声ねりせまとうつあう流
一の声まても潤子たうく物はは相恋と

吟とるに依く調子ひくきまをさうら
あう冬座敷の笛先ん人あきことそとい
ろくおひ潤よあきとと一
一古月乃潤子一越あり同国月を一越や
但去用の内成とそまひの潤子の遠一
まひふ春あはれま其まあはれな好あ
ん秋冬あはれを季乃潤子とうたあ
子細の昔天竺小ん人二大王とP王あり流
子五人まはれ一番六右郎乃王子二番は

二帝の王子三番三帝は王子と是と名付
 四番は四帝の王子也五番は五帝の王子と
 あり皮浪兄を四人小や四帝と一季宛分
 たる五帝の王子小志よむとあり一
 依く沙母君百ありいより五帝は王子
 大やうきんそのつるきと之給ふかりの
 依く七歳の活時沙兄四人乃王子は皮浪
 ととくん為軍とりち給ふと付ありは王子
 ら天竺ころり川の氷とふおちりは地と

池有皮小かつれ池乃中小城と梅給ひか
 城小給り沙軍とりちたまふ沙兄四人
 乃王子達さまくせりあひ給ふ時皮
 大やうきんその鈕とぬきかこきれ皮
 むろそり給ふ白人の王子はとく切
 まけたまひ血の川七月七夜ありま
 時大王よりとんせんはく所と沙勅は小
 たてし建々れんさあはみ帝は王子あり
 ちのひと分ありたまふ長時春三月

けり十八日復三月けり十八日秋三月けり
 十八日冬三月けり十八日合七十二日と五郎の
 王子小まひのけりをれあくそはか
 ちくそて又いかりとあけ給へあつ目そつ
 目だいそい日とあく三年ふ一度の国月と
 化り出り去用七十二日にそてまひのけり
 宿のけり五郎は王子のあけあまひのき
 であのけり其時決かりひとくそ人せんをか
 けり去用乃うちふまひと云日とくけり

給ふ是子細あく去用れあそまひ乃
 潤子の遠ふあり又四季よ去用の調子の
 ちうあそ此後けりそてこそ此後代今
 よろそとあけあり
 一五調子吟するあり此後右乃子此人指
 けいあく吟する時をあけひのきりはま
 ちうあり
 一そあすちりけりあそそ平調あり
 一のあそあけあり

一 身へひげを越洞あり常小物去声お
洞ありたこのかゝりこく

一 こしまく此調子お洞あり昔やん人志を
を用つを尾らん志こそ水性あねん

一 まよあを月をそ火る此道具は似
こくお洞は定ことこくお洞は水性也

一 かるゆふよつて家木とこく出耳に
ねを本性はあゝあれ洞子也又去お調春

一 乃洞子なり甚は空季なりかあねん
乃りめ程の目出度調子あり

一 物云乃洞子なり中一の洞子二大度なり
一 前の中入り調子とこく今こくお

一 三と云とく一中入りらと洞子とあ
てかこくまこくあれ時かゆと此洞子

一 小あこくあれ
一 ちやうちれあひ行の書あはれあひ

一 なる成音あはれあひのあかあれたこく
いうあそく洞子たふとこく音いあやあ

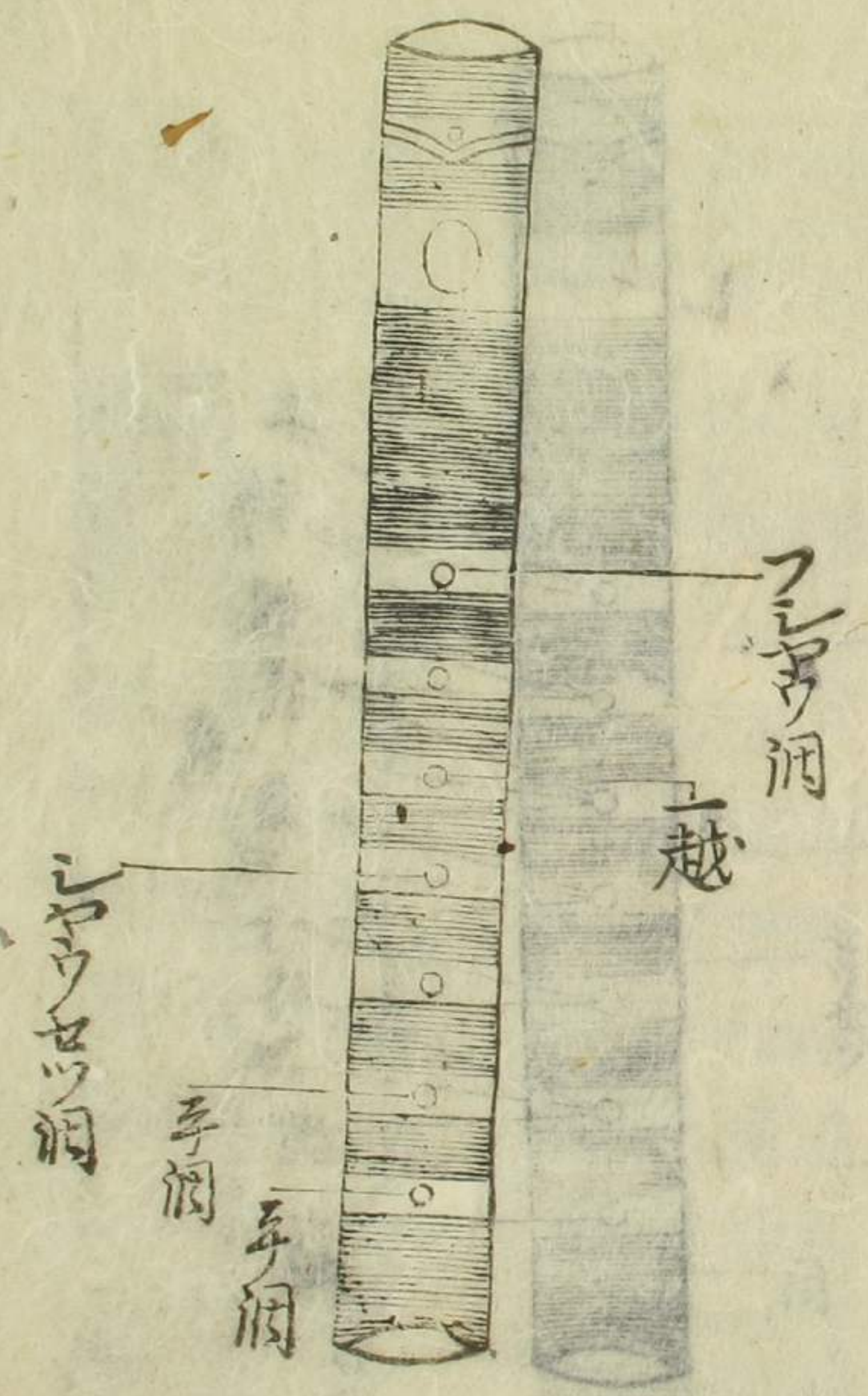
114

115

くちやあの一らひなり深乃洞より一洞
子たうくちあの一らひありあまひのうへ乃あひ
一らひ同前

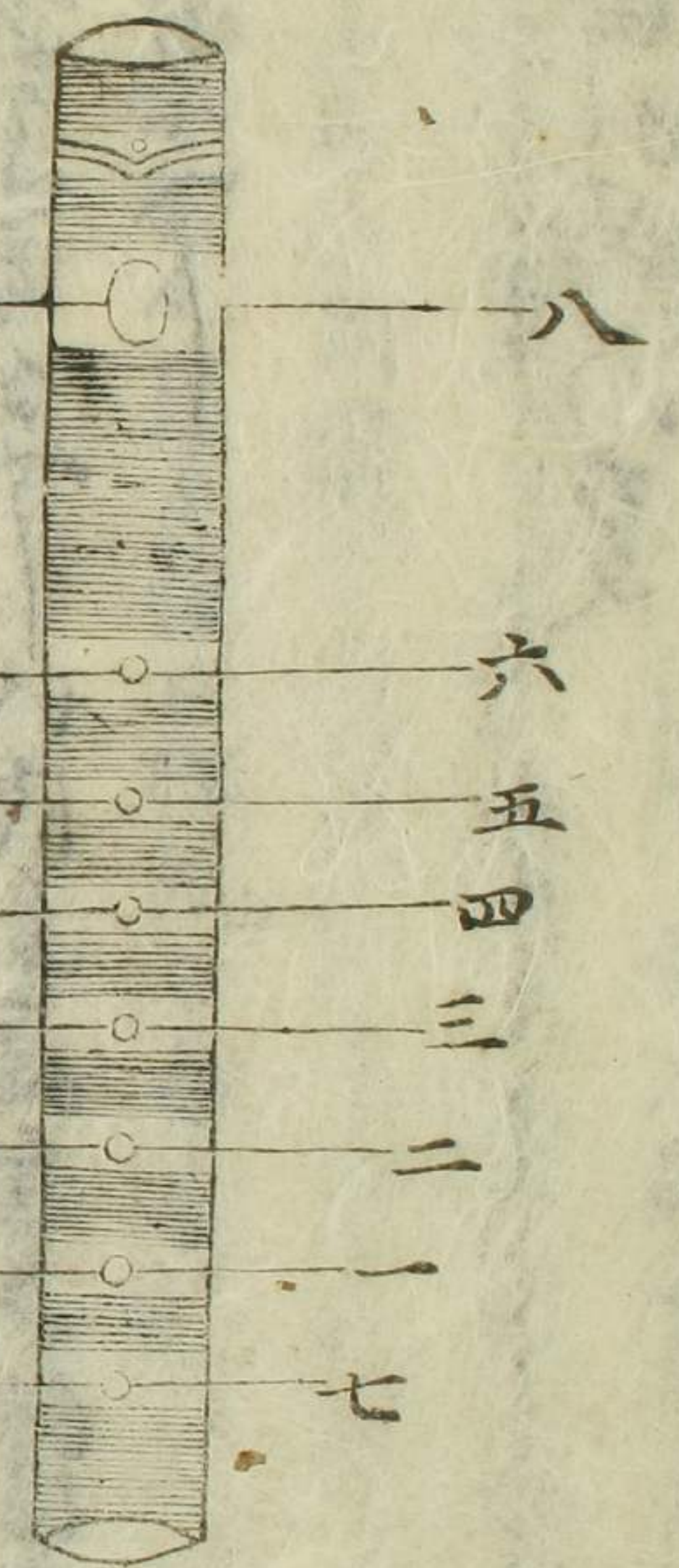
一鉄橋かんだん江口松風うをうれたういそ洞
子たうきとまきらふあり一長謡乃洞子をふ
はか根のたふいかり一是とひく方別有へ一
一西行橋よあれ柴うきれ戸をひくまきて
肉へ入水へと云取おとあこ一清いり作さ
らくくくと云洞子ありはへん橋苑とらこ
つとひまほこらうらうらうらうらうらうらうら
苑うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
橋苑乃調子と橋の位を吟一うらうら
と云へ一此心うきかんのうらうらか根のう
あまうらうらうらうらうらうらうらうらうら
あまうへ一

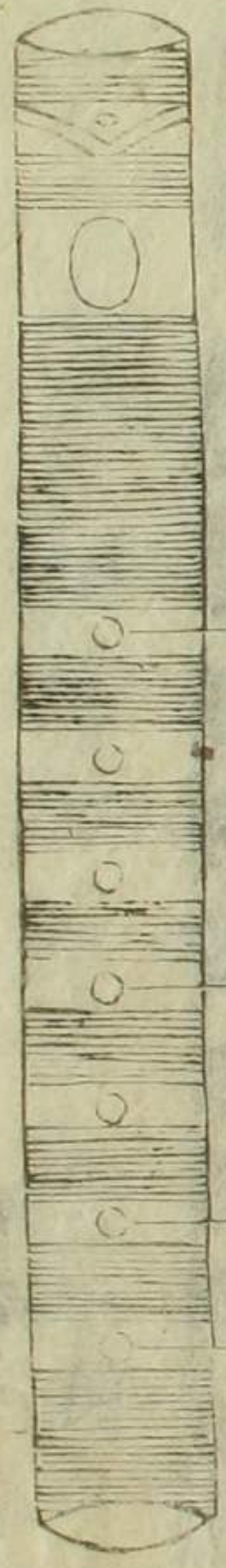
一あまうらうら



九穴トモ云
口氏云

六中
上
下

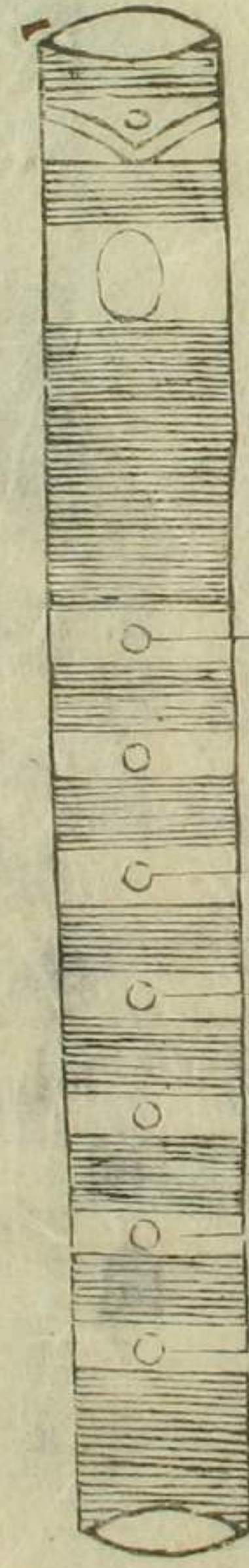




ニセツ

ニセツ
タキ

ニセツ



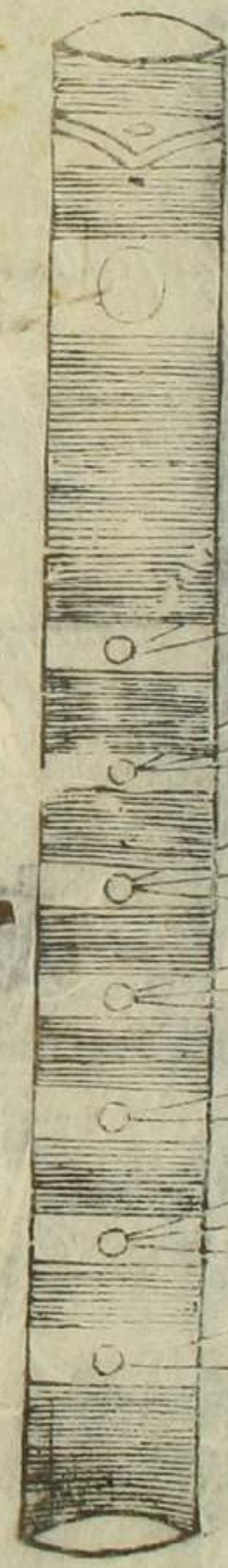
フタツ洞

一越

セウセツ

ヒツ洞

同



上

神
盤
釜

黄

島
丹

下
勝
平

跡

一越

新編

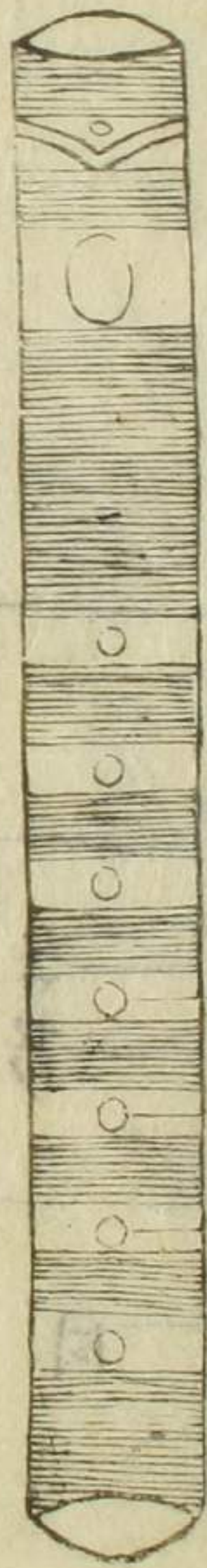
十六

右笛は番大秋のりも是と云ふ十二



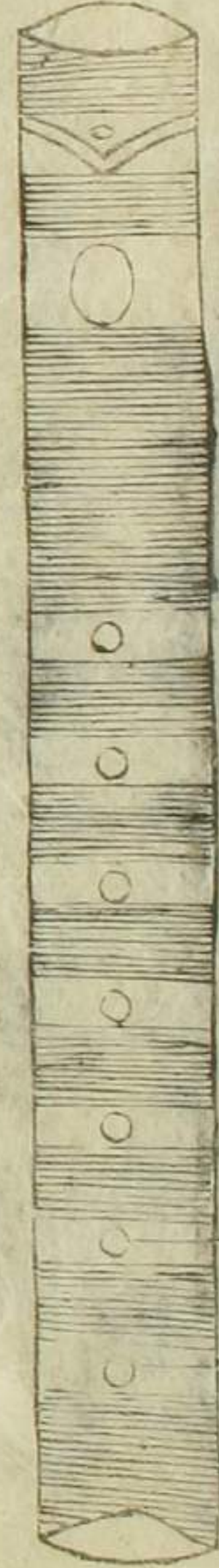
同
同
同

Handwritten notes in cursive Japanese characters, including the characters '同' (same) and '下' (bottom).



雙洞
同
同

Handwritten notes in cursive Japanese characters.



下
同

Handwritten characters on the right edge of the page.

調子吹分くうつり 名及呂律分別可
有さうあう 笛小かきう 書物ゆく合
点ゆさうう 大元れ心まてあうう
く口傳めんようあり

一 傍前乃囃小座敷あとしんくれをう
又さうまのあをれをや 此時双洞此
舞小や吹くくをぬあひあり

一 且さう乃笛まうく 座付と吹く
やうて座付と云義あり 座付此後常

乃能小や吹くくさう 此座付此前
ふをひくう想を乃あり 是秘書とい
くさう 家母さうあひせぬ心得へ

一 調子の双洞可物さうん志をいそ水此洞子あ
れえさうくはさや同を本性と平と用れ雙
洞を小作

一 且さ此方さうくさうん志をいそ水此洞子
乃事我う声出くさうて我う洞をさう
さうにせぬさあうさうん志をいそ

合は相意を小のそくちまは潤子たぐは
そくちむろさな乃能を志さひる有
間後い其時ふよまは調子のあひのまま
了清取取ハ相意乃潤子うあやとまを
ふさてそくちまは調子のあひのまま
取潤子とめくくしてはまの習あり又声
ふくちちまあひのそくちまの潤
子らういふり中乃よまはちまのたれ
あひの

一 調よね云乃あひのら乃調子おんせの
又偏のまをまあひのそくちまの
吟一 相意よあひのそくちま
一時乃潤子と吟すれはねるり口をひひ鼻
乃息をあひのそくちまのあひのそくちま
あひのそくちま相意乃潤子のあひのそくちま
其潤子小をりて流むと物之是と時の潤子
摩あおな乃調子といふ笛あひの時乃
事あひのそくちまあひのそくちま

とゆくやうそ右れよく吹すれは吹ぬの洞
子通るもれあり

右洞子のさう九十二ヶ条業も結とて何世

も天地の洞小六洞子もそおくるのあり

五分此業乃肝雲之洞子とううの諸

ありそのあつうひがよひうううう

十二洞子れさうたんけん松吉肝雲之



1. 龍王の洞子... 龍王の洞子... 龍王の洞子...

